

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り

平成30年3月8日 (NO.104)



浦幌町教育委員会
浦幌町教育研究所

1. 幼保小中間の連携・協働

ボランティアの取りまとめや活動掲示板の作成、小中合同「漢字検定・英語検定」の実施に努めた。

学園内で幼保小中の合同研修会や協議の場を定期的に設け、相互の連携・協働を進めた。

2. 学園CSカレンダーの共同発刊

各学校のCS担当者や「地域・学校協働コーディネーター」の協働により、両学園合同の「CSだより」を作成し、町内全戸に配布できた。

3. アクションプランに基づいた取組

熟議を通して作成したアクションプランに基づいて、小中一貫CSの展開に努めた。

昨年の反省で出された6年生の「太陽への手紙」と中学3年生の「まちづくり活性化提案」との連携を図ることができた。

また、振興局森林室や北村林業等と協働して小中合同の木育を行うなど、社会に開かれた教育課程の編成実施に努めた。

第3回CS推進協

■平成30年3月8日(木)、第3回浦幌町小中一貫CS推進協議会を開催し、29年度活動報告と30年度計画について協議しました。

3年目を経過し一段と進んだ小中一貫CSの成果と課題は、次の通りです。

4. 学園評価委員会等の位置付け

スクールアナリストの指導により、学園評価委員会の組織や役割が明確になった。今後、学園評価委員会を組織図に位置付け、教職員中心の推進協議会と地域や家庭中心の学校運営協議会との連携・協働を深めていく必要がある。

また、「地域学校協働本部」の位置付けも必要。

5. 人事異動に伴う引継ぎの重要性

各学園担当者等の積極的な取組により、CS導入3年目の成果が表れてきた。

担当者が交代しても、こうした持続可能な仕組みを継続できるよう、文書やデータによる確かな引継ぎをしていく必要がある。

6. 新年度活動の重点

引き続き木幡先生の指導のもと、アクションプランに基づいた学園評価を生かし、「スマホやゲーム機使用」のルール宣言に基づいて「基本的な生活習慣及び家庭学習の定着と学力・体力の向上」に重点をおいた取組をさらに深掘りしていく。



平成29年度浦幌町小中一貫CS推進協議会の皆さん